

# 高 松 原 遺 跡

2001年3月

長野県飯田市教育委員会



調査区全景



出土壺



出土壺



高松原遺跡上空写真

# 序

飯田市上郷地区は飯田市街地の北に位置し、天竜川河岸から木曾山脈前山の麓までの東西に細長い範囲を占め、川沿いの平坦地から段丘面・扇状地等に比較的広い耕地が広がっています。このような地形を利用して私たちの先祖は生活を営み、遺跡という形で現代に残されています。これらは私たちの地域社会や文化を形作ってきた様々な証であり、出来る限り現状のままで後世に伝えることが私たちの責務でありましょう。しかし、現実社会に生きる人間としてよりよい社会や生活を求めていく権利も尊重するべきであり、日常生活の中で文化財の保護と開発という相容れない事態に直面する事が多くなっています。このような状況の中、発掘調査を実施して記録にとどめるという文化財保護の観点から改善の策を取らざるを得ない状況も生じています。

飯田高校は近年新校舎の建設等学校施設の充実が進んでおり、今回の建設工事は北体育館の新築工事です。体育館の建設地を含め校内の敷地は「高松原遺跡」の包蔵地内であり、これまで何度か調査が行われ下伊那有数の弥生集落が確認されています。それゆえ今回関係各方面との協議等の結果、工事実施に先立って緊急発掘調査を行い、記録保存を図ることとなりました。

調査結果は本文で述べられているとおりではありますが、今回の調査で弥生集落の広がりがさらに明らかになりました。調査で得られました様々な知見は、これから地域の歴史を理解していく上で貴重な資料となると確信しています。

最後になりましたが、調査実施にあたり文化財保護の本旨に多大なご理解とご協力をいただいた長野県教育委員会、飯田高校をはじめ、本調査に関係された全ての皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成13年3月

飯田市教育委員会

教育長 富田 泰 啓

## 例 言

1. 本書は、長野県飯田高等学校による 小体育館・プール建設工事に先立つ飯田市上郷「高松原遺跡」の緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は、飯田高等学校から委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は、平成11年度に試掘調査、平成12年度に本調査、整理作業及び報告書作成作業を行った。
4. 調査実施に当たり、基準点測量を株式会社ジャステックに委託した。
5. 本遺跡は、今回を含めて6次調査されており、以前飯田高等学校・上郷町教育委員会により行われた同遺跡発掘調査の実績を踏まえ、遺構番号を付けることとした。
6. 発掘作業及び、整理作業にあたり、遺跡略号をTMBとして使用し、遺跡の中心地番である360-8を略号に続けて付した。
7. 本報告書では以下の遺構番号を使用している。竪穴住居址・方形竪穴-SB、掘立建物址-ST、溝-SD、土坑-SK
8. 土層の色調・土性は、『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。
9. 本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により福澤・坂井が行った。
10. 本書の執筆と編集は調査員の協議により佐々木・福澤・坂井が行い、小林正春が総括した。
11. 本書の写真について、遺構は福澤・坂井が、遺物については西大寺フォト杉本和樹氏が撮影した。
12. 本書の遺構図の中に記した数字は、検出面・床面からのそれぞれの穴の深さ(単位cm)を表している。
13. 挿図中のスクリーントーンは土器の朱を示す。
14. 石器実測図の表現については「T」刃潰し加工・「K」敲打・「S」研磨を示す。
15. 本書に関連した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市川路1004-1番地、飯田市考古資料館で保管している。

# 本文目次

序	⑥SB57 (新) .....	14
例言	⑦SB57 (旧) .....	14
目次	⑧SB58 .....	16
第Ⅰ章 経過	⑨SB59 .....	16
1 調査に至るまでの経過 .....	⑩SB60 .....	18
2 調査の経過 .....	(2) 方形竪穴	
3 調査組織 .....	SB61 .....	19
第Ⅱ章 遺跡の環境	(3) 掘立柱建物址	
1 自然環境 .....	ST10 .....	19
2 歴史環境 .....	(4) 溝	
第Ⅲ章 調査結果	SD01 .....	19
1 調査区の設定 .....	(5) 土坑	
2 基本層序 .....	土坑観察表 .....	20
3 遺構 .....	(6) 遺構外出土遺物 .....	22
(1) 竪穴住居址	第Ⅳ章 まとめ	
①SB52 .....	1 今次調査を終えて .....	34
②SB53 .....	2 高松原遺跡と周辺の遺跡 .....	34
③SB54 .....	参考文献 .....	36
④SB55 .....	報告書抄録 .....	75
⑤SB56 .....	奥付 .....	76

# 挿図目次

挿図1 調査遺跡位置図 .....	3	挿図14 SK123~128 .....	22
挿図2 調査位置及び周辺遺跡地図 .....	4	挿図15 遺構全体図 .....	23
挿図3 基準メッシュ図区画調査位置 .....	6	挿図16 周辺ビット図① .....	24
挿図4 基本層序 .....	8	挿図17 周辺ビット図② .....	25
挿図5 SB52・53 .....	9	挿図18 周辺ビット図③ .....	26
挿図6 SB54 遺物分布図 .....	11	挿図19 周辺ビット図④ .....	27
挿図7 SB55・56 .....	13	挿図20 周辺ビット図⑤ .....	28
挿図8 SB57 新旧 .....	15	挿図21 周辺ビット図⑥ .....	29
挿図9 SB58・59 .....	17	挿図22 周辺ビット図⑦ .....	30
挿図10 SB60 .....	18	挿図23 周辺ビット図⑧ .....	31
挿図11 SB61・ST10・SD01 .....	19	挿図24 周辺ビット図⑨ .....	32
挿図12 SK109~114 .....	20	挿図25 周辺ビット図⑩ .....	33
挿図13 SK115~122 .....	21		



## 遺物図版目次

第1図 SB52	37	第6図 SB57	42
第2図 SB53	38	第7図 SB57 (1~9)・58 (10~20)	43
第3図 SB54	39	第8図 SB59	44
第4図 SB54	40	第9図 SB60 (1~16)・遺構外(17)	45
第5図 SB55 (1~14)・56 (15~22)	41		

## 写真図版目次

図版1 調査区全景	47	図版16 SK127・SK128・ST10・ 重機作業風景	62
図版2 試掘調査風景	48	図版17 重機作業風景・基準点測量・ 作業風景	63
図版3 SB52・炉・遺物出土状況	49	図版18 作業風景・飯田高校現地見学会・ 浜井場小学校現地見学	64
図版4 SB53・遺物出土状況・入口部・炉	50	図版19 飯田高校生発掘体験学習・ 調査区写真撮影風景	65
図版5 SB54・入口部・炉	51	図版20 SB52 出土遺物	66
図版6 SB54 遺物出土状況	52	図版21 SB53 出土遺物	67
図版7 SB55・入口部・炉	53	図版22 SB54 出土遺物	68
図版8 SB56・入口部・炉	54	図版23 SB55・SB56	69
図版9 SB57(新)・SB57(旧)	55	図版24 SB57 出土遺物	70
図版10 SB57 遺物出土状況・ 炉(新)・炉(旧)	56	図版25 SB57・SB58	71
図版11 SB58・入口部・炉	57	図版26 SB58・SB53, 58・SB59	72
図版12 SB59・入口部・炉・遺物出土状況	58	図版27 SB59・SB60	73
図版13 SB60・炉・入口部・遺物出土状況	59	図版28 出土石器	74
図版14 SK109・SK110・SK111・SK112・ SK113・SK114・SK115, 116・ SK117	60		
図版15 SK118・SK119, 120・SK121・ SK122・SK123・SK124・SK125・ SK126	61		

# 第 I 章 経 過

## 1 調査に至るまでの経過

平成12年2月4日付11教高第372号にて、長野県教育委員会教育長より長野県飯田高等学校敷地内における小体育館、プール建設に係る埋蔵文化財発掘の通知が提出された。

当学校は埋蔵文化財包蔵地「高松原遺跡」内に位置し、これまで校舎関連施設の建設に先立つ発掘調査をはじめとして、試掘・立会い確認等が度々行われている。中でも昭和50年から51年度にかけて行われた第二運動場の建設に先立つ調査では弥生時代後期の住居址が35軒確認され、下伊那有数の弥生集落として広く知られることとなった。このように当地域の弥生集落を考えていく上で重要な遺跡であるが、学校の敷地内であり、老朽化した施設の建設は避けがたく、建設に先立つ発掘調査を行い記録保存が図られることとなった。しかし、当該地における既存建物の解体作業の遅れにより、平成11年度内の調査実施が不可能な状況となったため、関係各機関と協議の結果、11年度は一部解体された箇所を試掘調査を実施して地下の状況を判断する事となり、委託契約締結後、同年3月28日から31日にかけて試掘調査を行い、弥生時代後期の住居址2軒等を確認した。

## 2 調査の経過

平成12年4月21日付にて飯田市長田中秀典と、飯田高等学校長小林正明との間で本発掘調査の委託契約を締結し、同年4月24日に現地での発掘調査に着手した。

調査は、4月24日より28日にかけて重機による表土剥ぎ作業を、その後基準点設置作業及び作業員による遺構検出作業を開始した。堅穴住居址・土坑・溝址等を検出し、順次掘り下げて精査を行い全体及び個別の測量調査、写真撮影を実施して、同年6月7日に現地での作業を終了した。

なお調査期間中には、地元飯田高校生及び教員の方々、浜井場小学校の生徒を対象とした現地説明会、飯田高校生の希望者による発掘体験作業を実施し、多数の参加を得た。

その後、飯田市考古資料館において現地で記録された図面・写真類の整理作業、出土遺物の水洗・注記・接合・復元作業・遺物実測・写真撮影作業・第2原図の作成・トレース・版組等を行い、平成12年度に本発掘調査報告書を作成した。

### 3 調査組織

#### (1) 調査団

調査主体者 飯田市教育委員会 教育長 小林恭之助（～平成11年12月24日）

同 富田 泰啓（平成11年12月25日～）

調査担当者 佐々木嘉和 福澤 好晃 坂井 勇雄

調査員 馬場 保之 澁谷恵美子 吉川 金利 下平 博行 伊藤 尚志 藤原 直人

（財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センターより派遣 平成11・12年度）

作業員 新井 幸子 新井ゆり子 池田 幸子 伊藤 孝人 井上 恵實

太田 沢男 岡田 直人 金井 照子 唐沢古千代 北原 裕

木下 貞子 木下 早苗 木下 義男 木下 力弥 木下 玲子

熊崎三代吉 小池千津子 小島 康夫 小平まなみ 小林 千枝

斎藤 徳子 佐々木一平 佐々木真奈美 佐藤知代子 清水 三郎

代田 和登 杉山 春樹 関島真由美 瀬古 郁保 高木 純子

高橋 恭子 竹本 常子 橋 千賀子 田中 薫 田中 博人

筒井千恵子 中沢 温子 中田 恵 中平けい子 仲村 信

中村地香子 中山 敏子 服部 光男 林 勢紀子 林 ひとみ

原 昭子 樋本 宣子 平栗 陽子 福澤 育子 福沢トシ子

古林登志子 牧内 修 牧内喜久子 牧内 八代 正木実重子

松下 成司 松下 省三 松島 保 松本 恭子 三浦 厚子

三浦 照於 宮内真理子 森藤美智子 森山 律子 柳沢 謙二

吉川 悦子 吉川紀美子

#### (2) 事務局

飯田市教育委員会

関口 和雄（教育次長 ～平成11年度）

久保田裕久（同 平成12年度～）

小畑伊之助（博物館課長 ～平成11年度）

米山 照実（同 平成12年度～）

小林 正春（博物館課 埋蔵文化財係長）

馬場 保之（同 埋蔵文化財係） 澁谷恵美子（博物館課 埋蔵文化財係）

吉川 金利（同 ） 下平 博行（同 ）

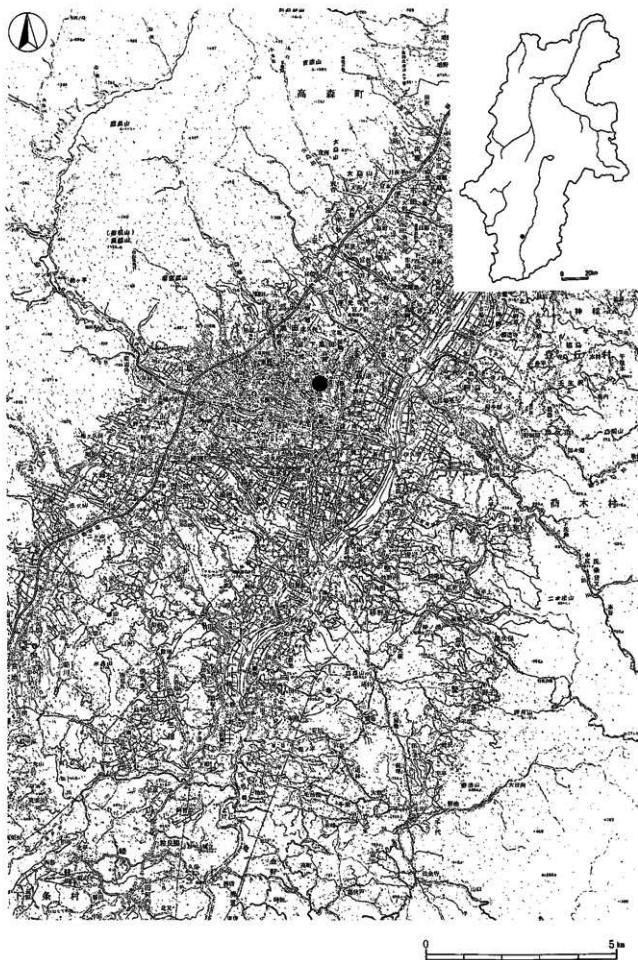
伊藤 尚志（同 ） 福澤 好晃（同 ）

坂井 勇雄（同 ）

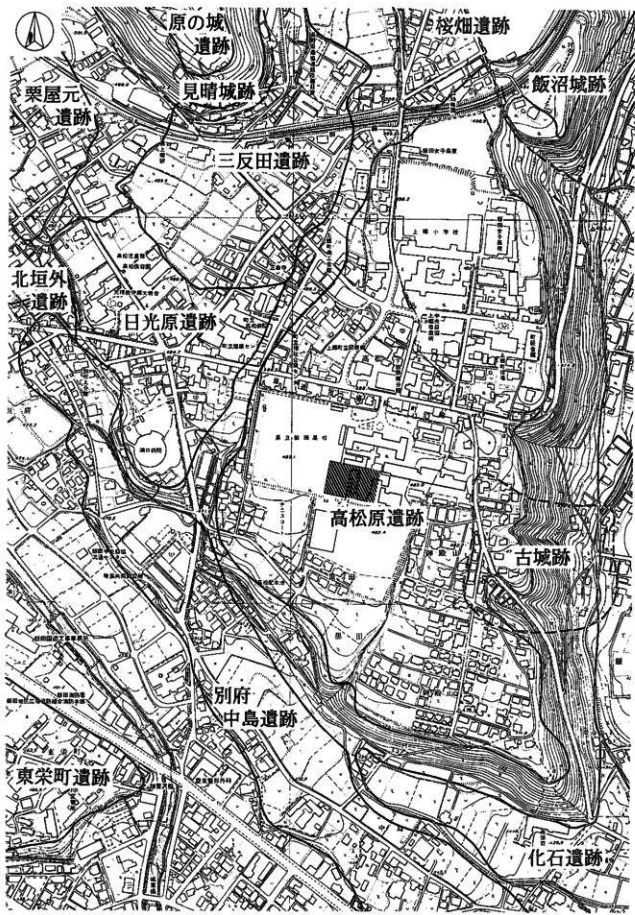
麦島 博晴（博物館課 庶務係長 ～平成11年度）

今村 進（同 平成12年度～）

松山登代子（同 庶務係）



挿図1 調査遺跡位置図



挿図2 調査位置及び周辺遺跡地図

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 1 自然環境

高松原遺跡の所在する飯田市上郷地区は、長野県の南端を南北に走行する伊那山脈・中央アルプスの谷間に広がる飯田盆地の中央部に位置する。地区の北西には野底山があり、ここを源として清流野底川と土曾川が南流して飯田松川と天竜川に注いでいる。周辺は東側に天竜川を境として喬木村が、西は野底川を挟んで飯田市街地が、南は松川を境として飯田市松尾が、北は野底山と土曾川によって高森町と飯田市座光寺がそれぞれ隣接する。

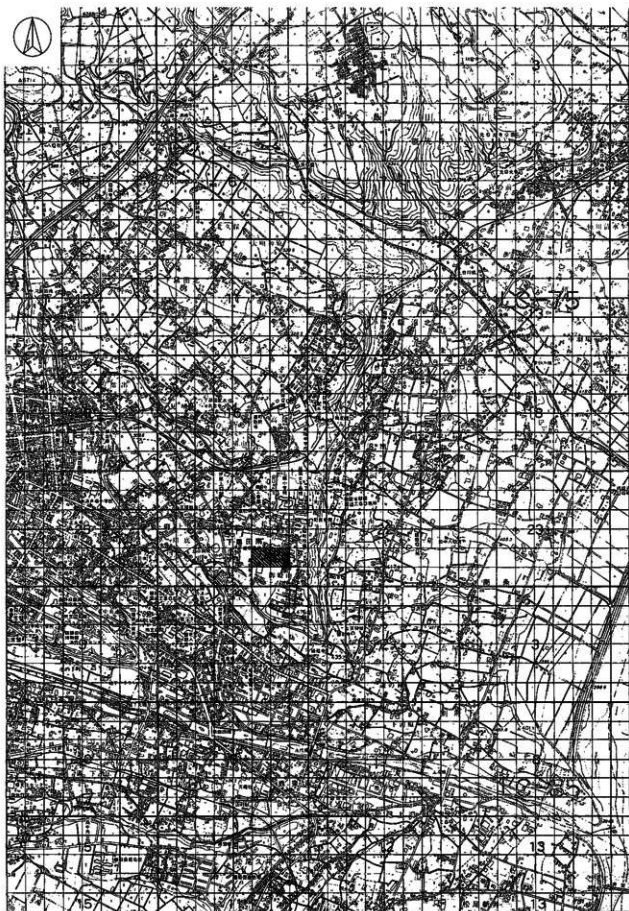
『下伊那の地質解説』によれば、伊那谷の段丘は火山灰土の堆積を基準として、高位面・高位段丘・中位段丘・低位段丘Ⅰ・Ⅱの五段階に編年されている。上郷地区の地形の特徴として、地区の中央部を南北に横断する大段丘があり、これを境として俗に上段（うわだん）と呼称される洪積土壌地帯の中位段丘及び低位段丘Ⅰと、下段（しただん）と呼ばれる沖積土壌面の低位段丘Ⅱが見られ、その段丘崖の比高は約50mを測る。前者には黒田地籍が、後者には別府・飯沼地籍がある。中位段丘・低位段丘Ⅰ地帯は天竜川の現河床面海拔398mとの比高差200～80mを測り、野底山山麓から南東方向に緩やかに傾斜する広大な地域を占めており、野底川による新期扇状地が発達し、総体とすれば乾燥した台地をなしている。この中位段丘・低位段丘Ⅰ地帯は三大別でき、南西側に原の城遺跡等がある中位段丘下殿岡面、北東側に大明神原遺跡がある中位段丘八幡原面があり、いずれも細長く小高い丘陵地形を呈している。この間の地域が低位段丘Ⅰ伊久間面で2×1kmの広い範囲となる。

高松原遺跡は下黒田地区に所在し、先に上げた低位段丘Ⅰの伊久間面台地上に立地しており、海拔470m～480mを測る。下段の桐林面に相当する狭い小段丘との比高差が30m～50mある急な段丘崖をもつ台地であり、地下水位の低さと相まって乾燥台地の特徴を示し、今日に至るまで農地としての土地利用は畑である。この下黒田地区は前述の原の城と大明神原の台地とに挟まれた一帯をいい、うねるように凹地と台地が連続しており、台地上には当遺跡をはじめとして良好な遺跡が多く存在している。

### 2 歴史環境

上郷地区における遺跡調査は、大正13年鳥居龍藏博士が『下伊那の先史及び原始時代図版』を編纂する為に市村成人氏と郡下一帯を調査したのが本格的な始まりであり、以後多くの人々の調査により地区内に立地する遺跡の状況が明確にされてきた。その中でも昭和57年度には上郷町教育委員会が調査主体者となり、遺跡詳細分布調査を実施し、平成5年度に飯田市と合併した後、平成7年度に飯田市教育委員会による市内遺跡詳細分布調査が行われた。

上郷地区の遺跡を概観すると、旧石器時代の遺構・遺物は現在までのところ確認されておらず、当地区最古の文化は上段の姫宮遺跡出土の表裏縄文式土器と、同じく黒田柏原遺跡（柏原A遺跡）出土の石器剥片、宮垣外遺跡出土の尖頭器などにより、縄文時代草創期からその黎明を知る事ができる。縄文時



挿図3 基準メッシュ図区画調査位置

代早期になると、比較的山よりの八王子遺跡など5遺跡から押型文土器や繊維を含む条痕文及び捺糸文土器が出土しており、平成元年度の西蒲遺跡の調査では該期の住居址が確認されている。縄文時代前期の遺跡は、姫宮・日影林・大明神原など8遺跡があり、上段の中段段丘Ⅰと低位段丘Ⅰ地帯が主体となるが、下段の飯沼・別府地域では地区内全域に展開する様子が明らかになりつつあり、昭和62年度に行われた矢崎遺跡の発掘調査で前期後半の住居址が確認され、見直しが必要になった。縄文時代中期になると、低位段丘Ⅱ地帯の南条面下段を除き、地区内一帯に遺物の散布が目立ち、人々の生活の広がりを示しており、増田遺跡、黒田大明神原遺跡では中期後葉の大規模な集落が確認されている。縄文時代後期、晩期になると遺跡数は極端に減少しており、特に後期では上段を中心として8遺跡、晩期では3遺跡が認められるのみである。

弥生時代は水稻栽培を経済基盤とする新文化であり、下伊那地方へは美濃・尾張・三河地方から東漸したものと推定される。弥生時代前期の遺物は少なく、中期になると遺跡数が増大する。特に南条面に立地する飯沼棚田遺跡は県下初の弥生時代の水田址が発見されたことで有名である。また、該期の遺跡の大半は下段の飯沼・別府地籍に集中することから、低位段丘Ⅱ地帯にみられた湿地帯を利用しての水稻耕作が類推されている。弥生時代後期になると水稻・畑作の複合農業に立脚して遺跡数はさらに増加し、集落跡として垣外遺跡・丹保遺跡をはじめとしてこの高松原遺跡など山麓地帯から天竜川氾濫原に至る間に数多く遺跡が立地している。

古墳時代になると、上郷地区にも数多くの古墳を構築した痕跡が確認される。現在のところ殞滅した古墳を含めてこの地区には36基が確認されており、その多くは別府地籍の台地端に立地する。平成9年度に実施した溝口の塚古墳発掘調査では未盗掘の竪穴式石室が確認されており、伊那谷でも有数の古墳構築地域である。集落は現在までのところ上段には見られず、下段の経済基盤の豊かな地域を中心に展開していたものと考えられる。

奈良・平安時代の遺跡数は多く、ほぼ地区内全域に分布している。中でも昭和62年度の矢崎遺跡・堂垣外遺跡発掘調査では大規模な集落址や殿治遺構が確認され、重要な遺跡となっている。遺跡が立地している低位段丘Ⅱ地帯は古代伊那郡衙址の座光寺地区恒川遺跡群と同一段丘上に立地し、古代条里遺構の存在が地割り・地名から推測される地域であり、古代史研究上注目すべき地域である。

高松原遺跡は古くから知られた遺跡であり、大正13年刊行の『下伊那の先史及原史時代』に記載されている。遺跡内には飯田高校が立地しており、昭和51年を皮切りに学校施設建設に先立つ発掘調査が数回にわたって行われた。その結果、縄文時代前期から弥生時代後期にかけての住居址が数多く確認され、特に弥生時代に関しては下伊那を代表する後期の集落遺跡として多くの人々に知られる事となった。今回の調査も施設建設に先立つ調査であるが、これまでの調査区と隣接した比較的広範囲にわたる調査を行う事が出来、周辺に広がる集落の様相をさらに明確にした。



# 第三章 調査結果

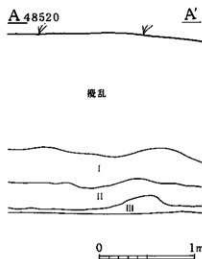
## 1 調査区の設定 (挿図3)

調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図（以下、基準メッシュ図と略す。）に基づいて、株式会社ジャステックに委託した。今次調査地点は挿図3に示す地点である。

## 2 基本層序

AR01グリットで基本層序確認の為の調査区を設けた。

層	JIS標準色番	土壌色	土性	しまり	粘性
I	10YR2/2	黒褐色土	S/C	強	なし
II	10YR3/3	暗褐色土	S/C	強	なし
III	7YR3/4	暗褐色土	S/C	強	なし



挿図4 基本層序

## 3 遺構

### (1) 竪穴住居址

#### ①52号住居址 (挿図5)

検出位置	BE31		覆土		
切合	切れる		住居内施設	床面	堅固
	切られる			主柱穴	P1・P2・P3・P4
規模・形状	プラン	方形	炉	貯蔵穴	
	規模(m)	4.85×4.7		入口	P6
	主軸	N54°W		形状	地床炉
	壁高(cm)	35		規模(cm)	63×61
	状態	ほぼ垂直		特記事項	3層に分層
出土遺物 (第1図)					
壺 甕 高杯					
有肩扇形状石器 石鏃					
特記事項					
試掘で出土した短頸壺(東海系)がSB60出土の短頸壺と接合する					
時	期	弥生時代後期前半	根拠	出土遺物	

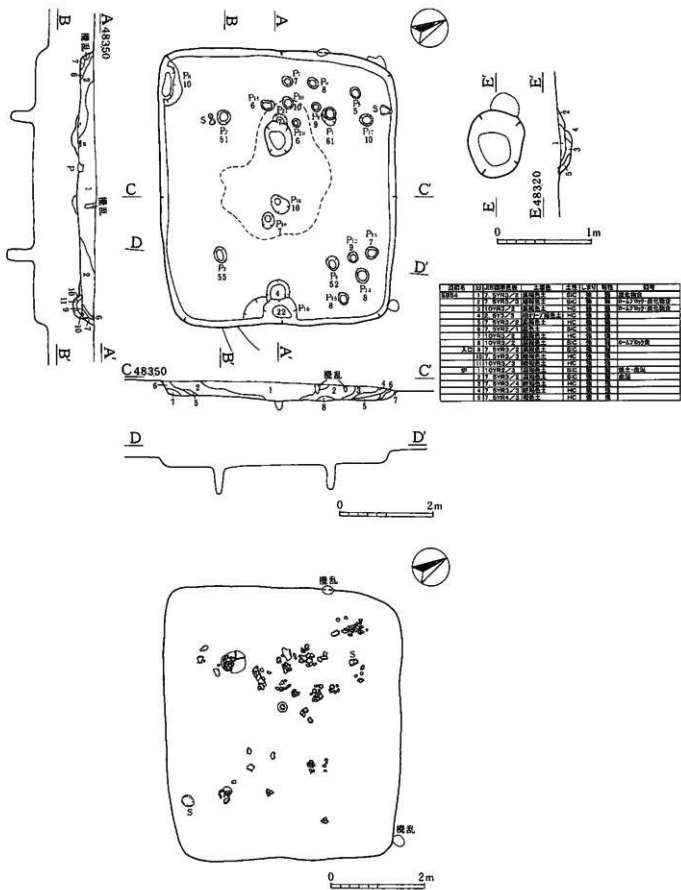


②53号住居址 (挿図5)

検出位置		BH47	覆土	5層	
切合	切る		床面	堅固	
	切られる		主柱穴	P1・P2・P3・P4	
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設 炉	貯蔵穴	
	規模(m)	5.9×5.7		入口	P7
	主軸	N52°W		形状	地床炉
	壁高(cm)	39		規模(cm)	55×48
	状態	ほぼ垂直		特記事項	2層に分層
出土遺物(第2図)					
壺 甕 ミニチュア土器					
有肩扇状形石器					
特記事項					
貼り床下ピットあり					
時期	弥生時代後期前半		根拠	出土遺物	

③54号住居址 (挿図6)

検出位置		AV47	覆土	8層	
切合	切る	SD01	床面	部分的に堅固	
	切られる		主柱穴	P1・P2・P3・P4	
規模・形状	プラン	方形	住居内施設 炉	貯蔵穴	
	規模(m)	5.7×5.1		入口	P16
	主軸	N68°W		形状	地床炉
	壁高(cm)	30		規模(cm)	71×57
	状態	ほぼ垂直		特記事項	5層に分層
出土遺物(第3・4図)					
壺 甕 台付甕					
打製石斧 有肩扇状形石器 横刃型石器					
特記事項					
炉址周辺に遺物が多い 点線内の床面 貼床なし					
時期	弥生時代後期前半		根拠	出土遺物	



挿図6 SB54 遺物分布図

## ④55号住居址 (挿図7)

検出位置		AW43	覆土	10層	
切合	切る		床面	堅固	
	切られる		住居内施設 炉	主柱穴	P1・P2・P3・P4
規模・形状	プラン	方形		貯蔵穴	
	規模(m)	5.05×4.75		入口	P13
	主軸	N54°W		形状	地床炉
	壁高(cm)	20		規模(cm)	67×58
	状態	ほぼ垂直		特記事項	3層に分層
出土遺物(第5図)					
壺 甕 有肩扇状形石器					
特記事項					
貼り床下ビットあり					
時期	弥生時代後期前半		根拠	出土遺物	

## ⑤56号住居址 (挿図7)

検出位置		AS35	覆土	7層	
切合	切る		床面	部分的に堅固	
	切られる		住居内施設 炉	主柱穴	P1・P2
規模・形状	プラン	方形		貯蔵穴	
	規模(m)	4.8×(2.7)		入口	P4
	主軸	N68°W		形状	地床炉
	壁高(cm)	29		規模(cm)	50×50
	状態	ほぼ垂直		特記事項	4層に分層
出土遺物(第5図)					
壺 甕 打製石斧					
特記事項					
調査区外へ続く北側壁面付近の床面が軟弱 遺物は僅かである					
時期	弥生時代後期前半		根拠	出土遺物	

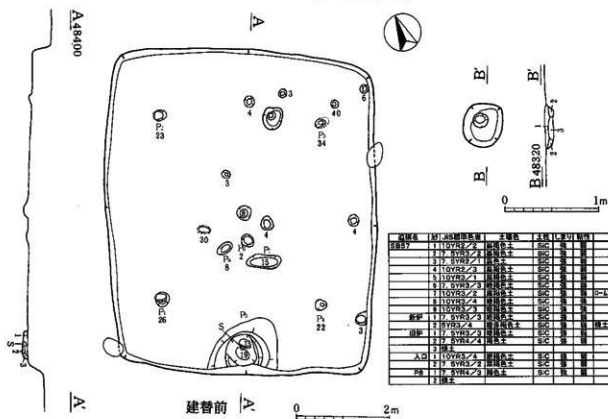
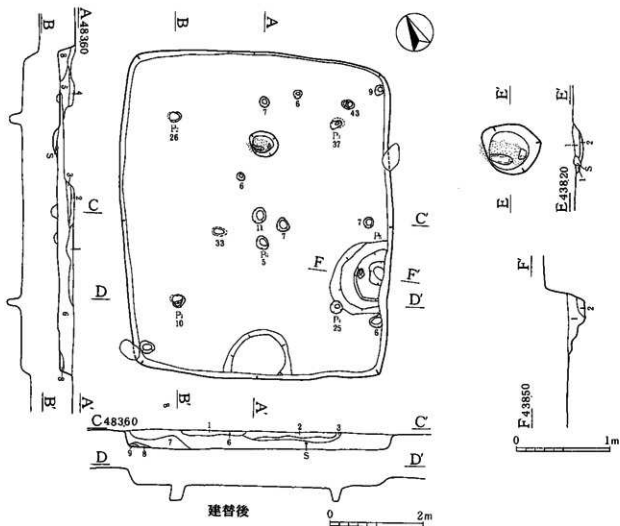


⑥ 57号住居址（新）（挿図8）

検出位置	AY37	覆土	9層	
切合	切れる	床面	堅固	
	切られる			
規模・形状	プラン	住居内施設	支柱穴	P1・P2・P3・P4
	規模(m)		貯蔵穴	
	主軸		入口	P5
	壁高(cm)		形状	地床炉
	状態		規模(cm)	63×50
		特記事項	2層に分層	
出土遺物(第6・7図)				
壺 甕				
有肩扇形状石器 横刃型石器 紡錘車				
特記事項				
ほぼ中央部の床面下で焼土確認				
建替え後主軸方位に対し右辺に入口部				
時期	弥生時代後期前半	根拠	出土遺物	

⑦ 57号住居址（旧）（挿図8）

検出位置	AY37	覆土		
切合	切れる	床面	堅固	
	切られる			
規模・形状	プラン	住居内施設	支柱穴	P1・P2・P3・P4
	規模(m)		貯蔵穴	
	主軸		入口	P5
	壁高(cm)		形状	地床炉
	状態		規模(cm)	45×42
		特記事項	3層に分層	
出土遺物(第6・7図)				
特記事項				
大型の住居址である				
時期	弥生時代後期前半	根拠	出土遺物	



調査号	層	調査範囲	子層名	土質	土質の別	備考
SB57	1	10VRS/2	埋土	SC		
	2	10VRS/1	埋土	SC		
	3	10VRS/3	埋土	SC		
	4	10VRS/2	埋土	SC		
	5	10VRS/1	埋土	SC		
新井	1	10VRS/3	埋土	SC		0-17cm部分
	2	10VRS/2	埋土	SC		
	3	10VRS/4	埋土	SC		
	4	10VRS/1	埋土	SC		
跡部	1	10VRS/3	埋土	SC		埋土
	2	10VRS/2	埋土	SC		
3層土	1	10VRS/4	埋土	SC		
	2	10VRS/1	埋土	SC		
跡	1	10VRS/3	埋土	SC		
	2	10VRS/2	埋土	SC		

挿図8 SB57 新旧



⑧58号住居址（挿図9）

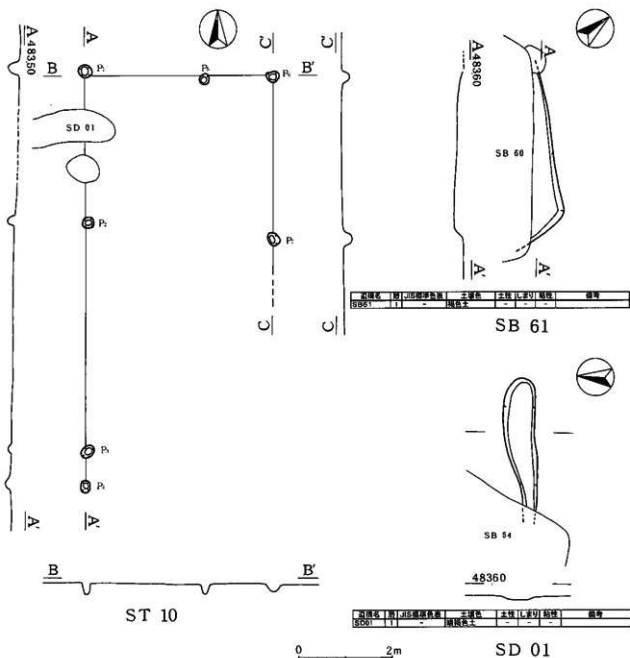
検出位置		BB35	覆土	6層	
切合	切る		床面	堅固	
	切られる		主柱穴	P1・P2・P3・P4	
規模・形状	プラン	方形	住居内施設 炉	貯蔵穴	
	規模(m)	5.6×5.3		入口	P6
	主軸	N48°W		形状	地床炉
	壁高(cm)	24		規模(cm)	52×52
	状態	ほぼ垂直		特記事項	2層に分層
出土遺物(第7図)					
壺 甕 ミニチュア土器					
特記事項					
貼り床下ビットあり					
時期	弥生時代後期前半		根拠	出土遺物	

⑨59号住居址（挿図9）

検出位置		BF36	覆土	11層	
切合	切る		床面	部分的に堅固	
	切られる		主柱穴	P1・P2・P3・P4	
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設 炉	貯蔵穴	
	規模(m)	5.2×5.0		入口	P5
	主軸	N62°W		形状	地床炉
	壁高(cm)	51		規模(cm)	60×52
	状態	ほぼ垂直		特記事項	単層
出土遺物(第8図)					
壺 甕 台付甕 高杯					
磨製石包丁(未製品)					
特記事項					
貼り床下ビットあり					
他の住居址よりも古相を示す					
時期	弥生時代後期前半		根拠	出土遺物	







挿図11 SB61・ST10・SD01

(2) 方形竪穴

SBNo	図No	検出位置	切り合い	形態	規模(m)	壁高(cm)	時代
61	11	BA31	SB60に切られる	方形	(3.8)×(0.7)	18	

(3) 掘立柱建物址

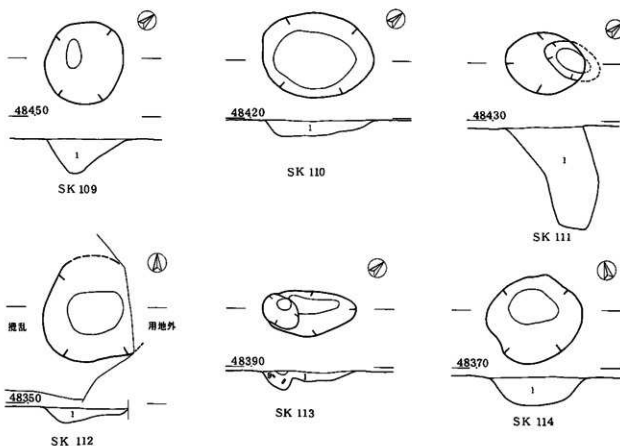
STNo	図No	検出位置	重複	規模(梁行×桁行)m	柱間m	主軸	時代
10	11	AU01	SD01に切られる	(8.6)×4.3			弥生(後)

(4) 溝

SDNo	図No	検出位置	重複	規模(長×大幅×大深) (小幅×小深)m	主軸	覆土	時代	出土遺物
1	11	AU49	SB54に切られる ST10を切る	(2.72)×0.69×0.09 0.3×0.05	N83°E	単層		無し

## (5) 土坑

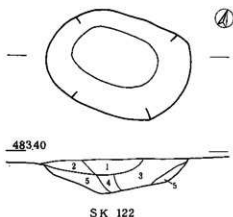
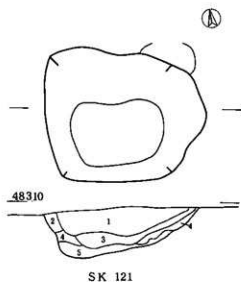
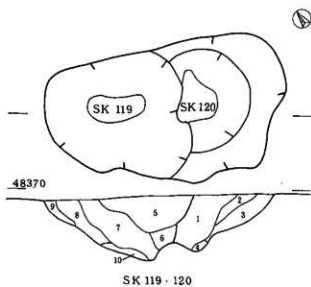
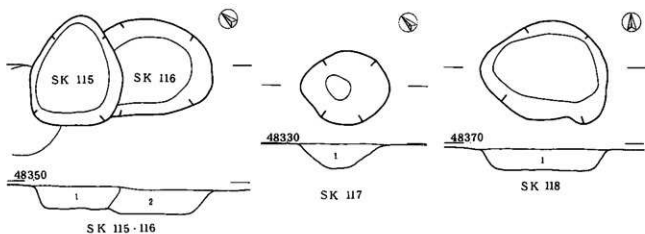
SKNo	図No	検出位置	規模(長×短×深)	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
109	12	BL 33	84×83×36	円形	単層		無し	
110	12	BL 03	101×88×18	楕円	単層		無し	
111	12	BL 04	83×64×107	楕円	単層		無し	
112	12	BC 03	(110)×(92)×(25)	楕円	単層		無し	攪乱の中
113	12	BH 43	99×50×22	楕円	単層		無し	焼土・炭混入
114	12	BB 48	99×96×27	円形	単層		無し	
115	13	AW 00	115×100×23	不正楕円	単層		無し	G・P SK116を切る
116	13	AW 00	(94)×101×26	楕円	単層		無し	SK115に切られる
117	13	AV 46	92×76×24	不正楕円	単層		無し	
118	13	BB 48	134×102×20	不正楕円	単層		無し	
119	13	BC 46	(155)×113×73	不正楕円	6層		無し	SK120を切る
120	13	BC 47	156×(111)×63	不定形	4層		無し	SK119に切られる
121	13	AQ 43	167×134×60	不定形	5層		無し	
122	13	AY 43	155×105×36	楕円	5層		無し	
123	14	AT 42	147×122×44	不正楕円	3層		無し	
124	14	BB 45	(110)×87×35	不定形	単層		無し	G・Pに切られる
125	14	AT 34	89×75×21	楕円	2層		無し	G・Pを切る
126	14	BB 32	93×85×40	楕円	3層		無し	G・Pに切られる
127	14	AX 34	214×140×55	楕円	7層		無し	
128	14	BH 38	210×104×45	不定形	2層		無し	



図面名	層	JIS分類	土質	土質(しまり)	処理	備考
SK109						
SK110	1, 7	BYR3/4	黒褐色土	SIC	強	
SK111	1	110YR2/3	黒褐色土	SIC	強	
SK112	1	110YR2/3	黒褐色土	HC	強	
SK113	1	110YR1/3	黒褐色土	SIC	強	
SK114	1, 7	BYR3/3	黒褐色土	SIC	強	

挿図12 SK109~114

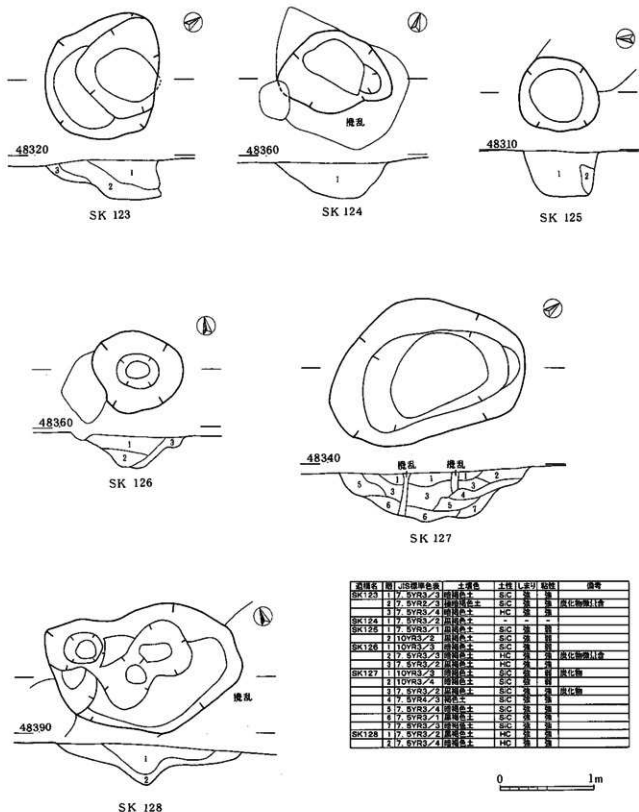
0 1m



発掘区画	区画番号	土層	土質	1.50m 段階	備考
SK115	1 17 SVR2/2	埋藏土	HC	埋	埋
SK116	2 10745/3	埋藏土	SC	埋	埋
SK117	1 17 SVR3/3	埋藏土	SC	埋	埋
SK118	1 10743/4	埋藏土	SC	埋	埋
SK119	1 12 SVR3/3	埋藏土	SC	埋	埋
	2 17 SVR4/2	埋藏土	HC	埋	埋
	2 17 SVR3/4	埋藏土	HC	埋	埋
	4 17 SVR4/3	埋藏土	SC	埋	埋
	3 17 SVR4/2	埋藏土	SC	埋	埋
	4 17 SVR4/2	埋藏土	SC	埋	埋
SK120	1 17 SVR2/3	埋藏褐色土	HC	埋	埋
	2 17 SVR2/4	埋藏褐色土	SC	埋	埋
	3 17 SVR4/4	埋藏土	SC	埋	埋
	4 17 SVR4/8	埋藏土	HC	埋	埋
SK121	1 10742/3	埋藏土	SC	埋	埋
	2 10744/3	埋藏褐色土	SC	埋	埋
	3 17 SVR3/2	埋藏土	SC	埋	埋
	4 17 SVR3/3	埋藏土	HC	埋	埋
	3 SVR3/8	埋藏褐色土	HC	埋	埋
SK122	1 10742/3	埋藏土	SC	埋	埋
	2 17 SVR3/3	埋藏土	SC	埋	埋
	2 10743/3	埋藏土	SC	埋	埋
	4 10745/4	埋藏土	HC	埋	埋
	3 17 SVR4/4	埋藏土	HC	埋	埋

0 1m

挿図13 SK115~122

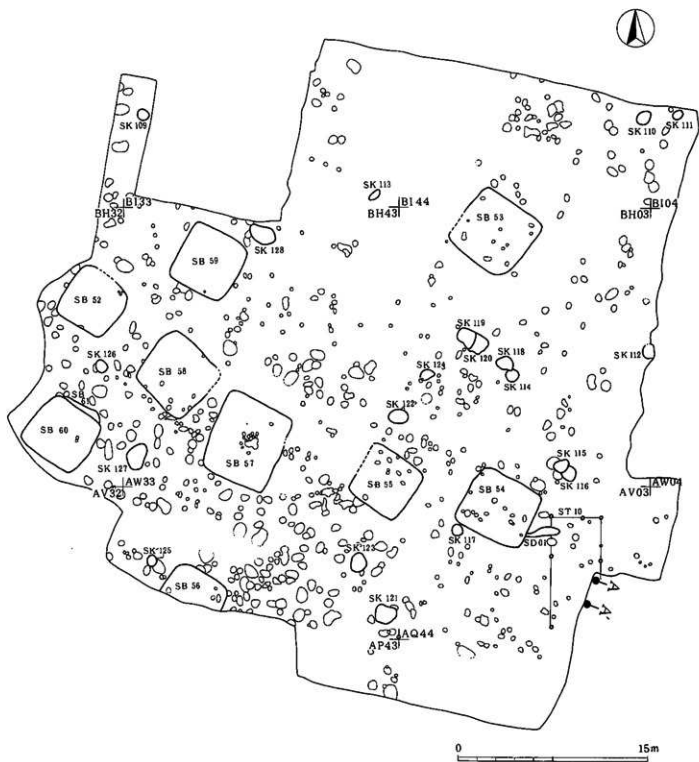


遺構名	層	JIS標準色典	土質色	土質	L	引	粘粒	調査
SK123	1	V	SVR3	3	凝結粘土	SC	強	強
	2	V	SVR2	3	凝結粘土	SC	強	強
	3	V	SVR3	4	凝結粘土	HC	強	強
SK124	1	V	SVR3	2	凝結粘土	SC	強	強
	2	V	SVR3	1	凝結粘土	SC	強	強
SK126	1	TOVR3	2	凝結粘土	SC	強	強	強
	2	V	SVR3	3	凝結粘土	HC	強	強
SK127	1	TOVR3	4	凝結粘土	SC	強	強	強
	2	V	SVR3	2	凝結粘土	HC	強	強
SK128	1	TOVR3	4	凝結粘土	SC	強	強	強
	2	V	SVR3	2	凝結粘土	SC	強	強
	3	V	SVR4	3	凝結粘土	SC	強	強
SK128	4	V	SVR3	4	凝結粘土	SC	強	強
	5	V	SVR3	4	凝結粘土	SC	強	強
	6	V	SVR3	1	凝結粘土	SC	強	強
SK128	7	V	SVR3	3	凝結粘土	SC	強	強
	1	V	SVR3	2	凝結粘土	HC	強	強
SK128	2	V	SVR3	4	凝結粘土	HC	強	強

挿図14 SK123~128

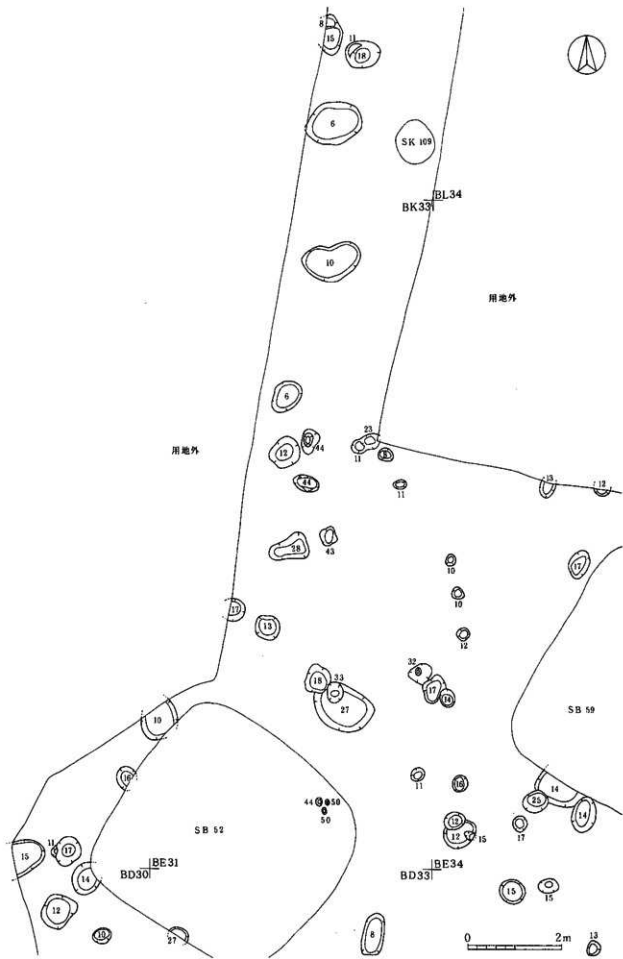
### (6) 遺構外出土遺物

図示可能な遺物は少なかったが、弥生時代後期の土器片、有肩扇状型石器等が確認されている。

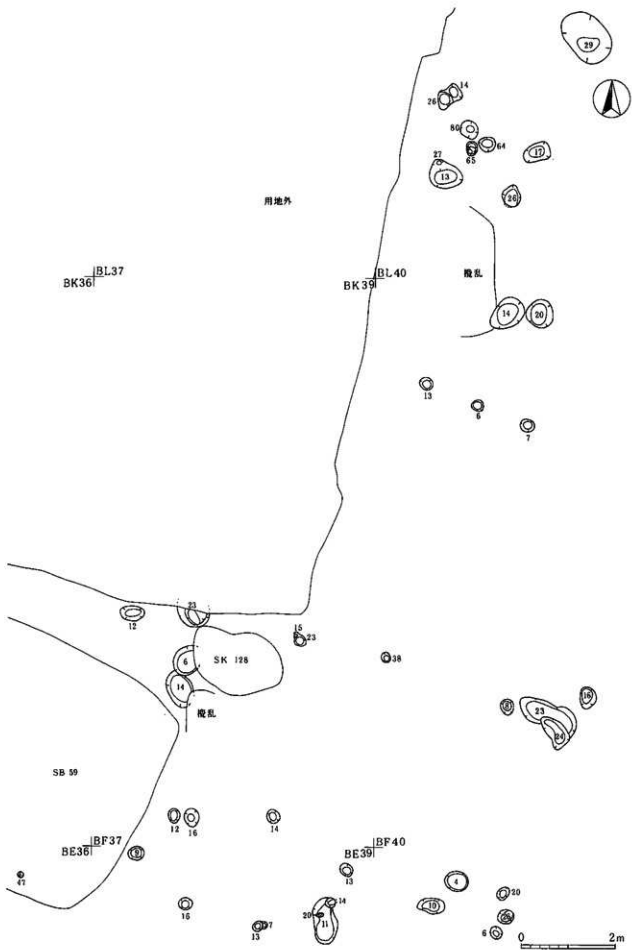


挿図15 遺構全体図

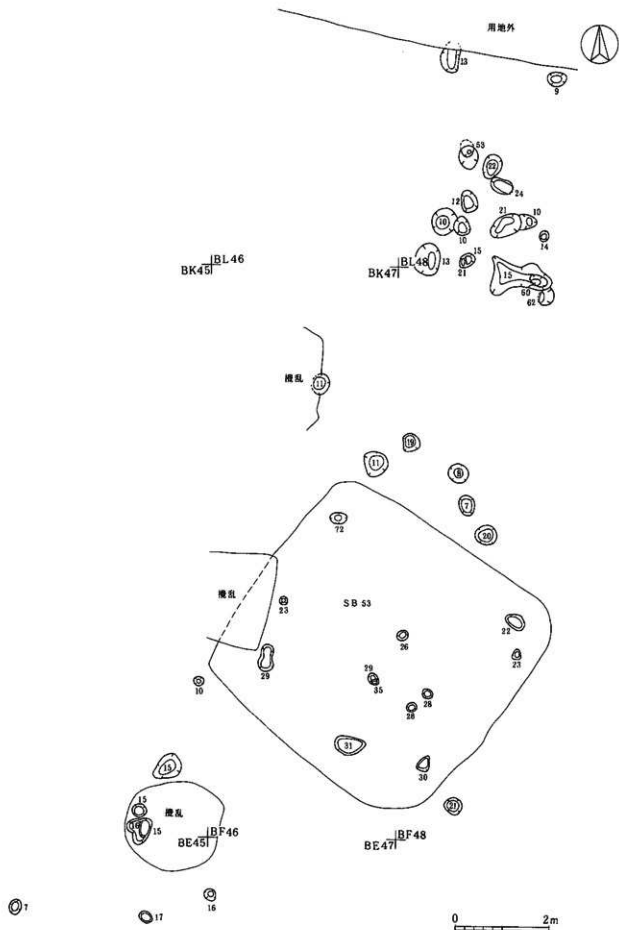




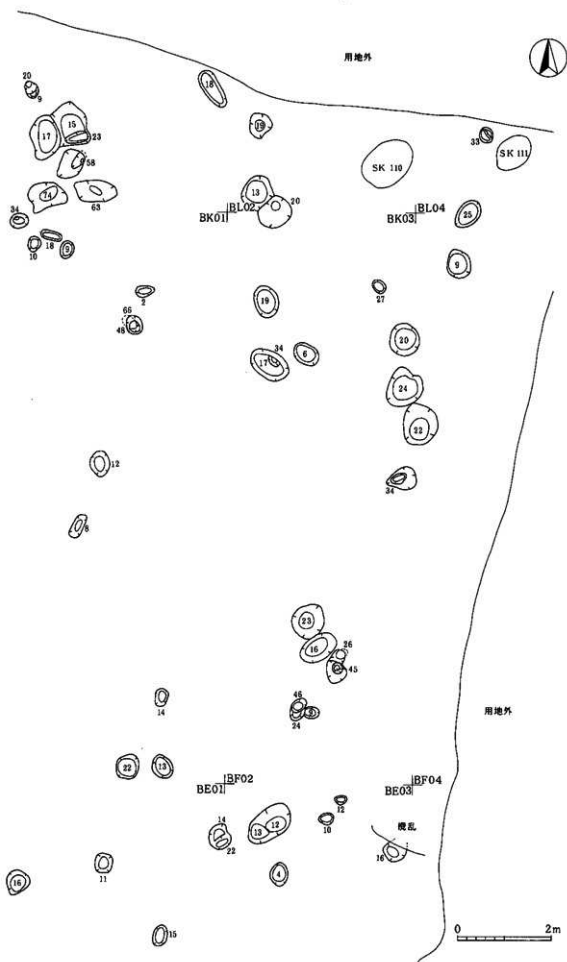
挿図16 周辺ピット図①



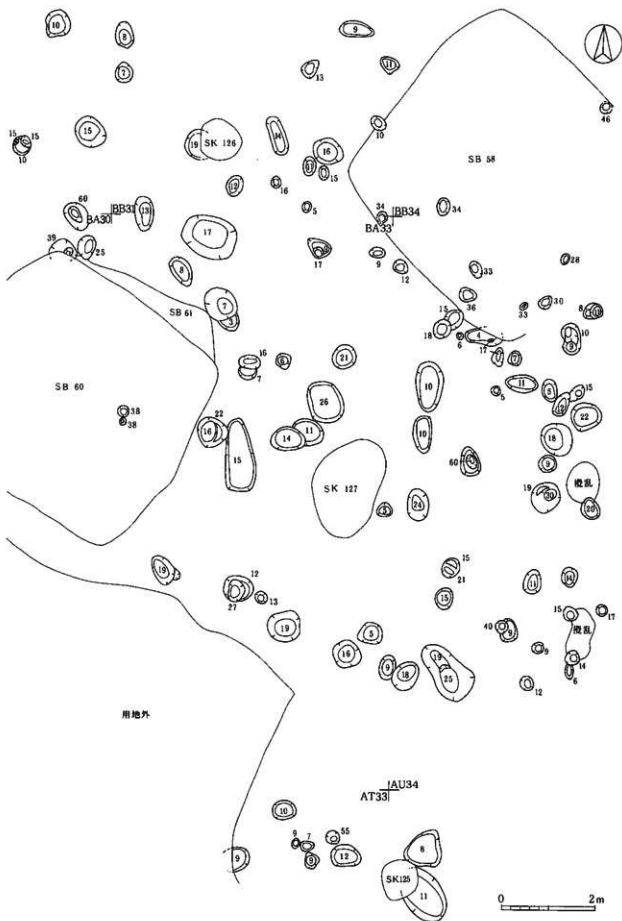
挿図17 周辺ピット図②



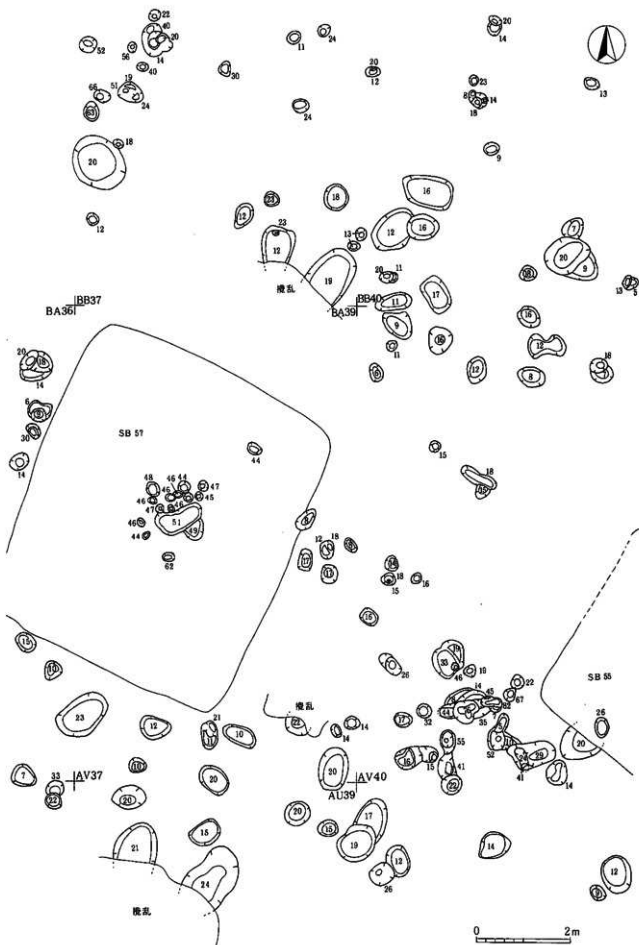
挿図18 周辺ピット図③



挿図19 周辺ピット図④



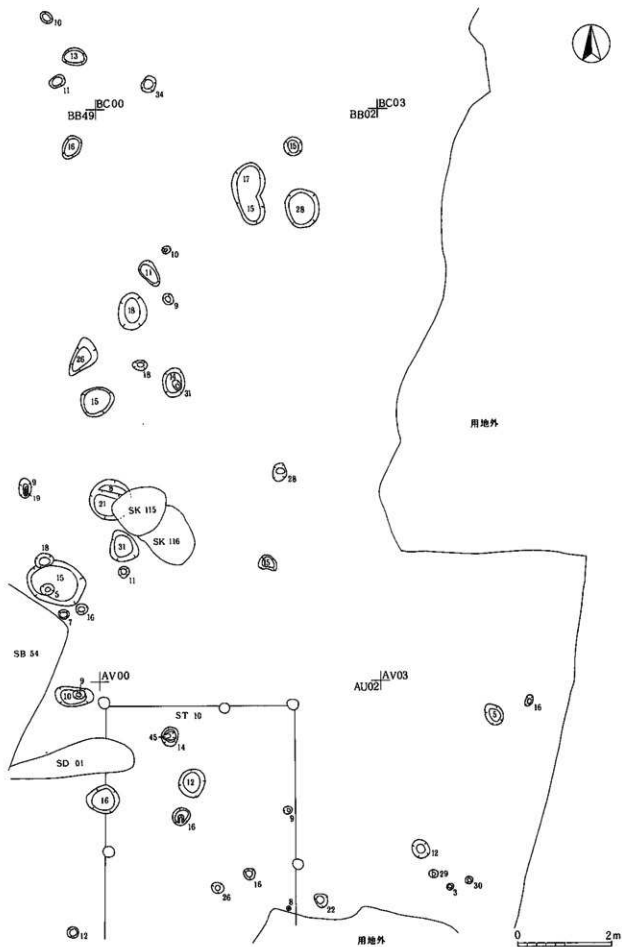
挿図20 周辺ピット図⑤



挿図21 周辺ピット図⑥

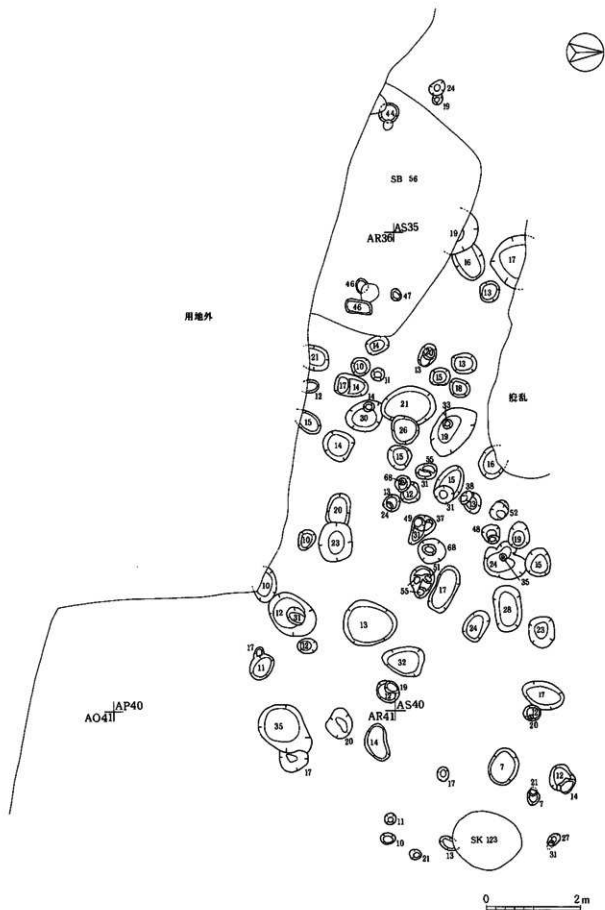


挿図22 周辺ピット図⑦

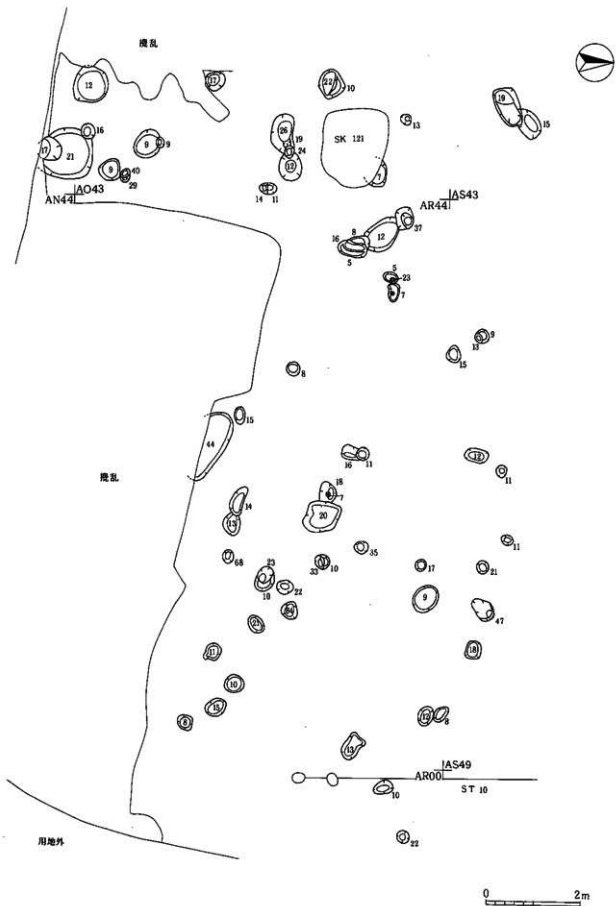


挿図23 周辺ピット図⑧





挿図24 周辺ピット図⑨



挿図25 周辺ピット図⑩

## 第Ⅳ章 ま と め

### 1 今次調査を終えて

高松原遺跡は、今次調査以前にも何度か調査が行われているが、その中でも昭和51年の飯田高等学校第二運動場建設に先立つ第1次調査（飯田高等学校 1977）、昭和58年の同校第二体育館建設に先立つ第2次調査（上郷町教育委員会 1984）において弥生時代後期の住居址43軒（座光寺原式期38軒、中島式期5軒）をはじめとして掘立柱建物址、土坑、縄文時代前期から中期にかけての住居址等が確認され下伊那を代表する弥生時代後期の集落遺跡として知られる事となった。今回の調査区は第1次、2次調査区の北側と隣接する地点で、当初より弥生集落の広がり予想される場所であった。

今回の調査において確認された遺構は住居址9軒、掘立柱建物址1棟、溝址1条、土坑20基であり、住居址に関しては遺構形態、出土遺物より9軒全て弥生時代後期前半の座光寺原式期と推定され、改めて弥生後期の集落の広がりを確認する結果となった。

出土した9軒の住居址は、土器の様相・住居址の位置関係からSB57、59→SB54、55→SB52、56、58、60→SB53のような若干の時期差が認められるが、座光寺原式期の比較的短い期間の集落と言える。

特に注目される住居址はSB57で、建替えがされているとはいえ床面積が約40㎡という非常に大型の住居址である。また、その構造に関して主軸方位が北東である点、建替え後の入口が主軸方位の右辺である点など、明らかに他の住居址とは性格が異なる。この大型住居址については、以前の調査区でも数軒確認されており、集落における「共同家屋」（甲元 1986）として考えられている面もあるが、その性格等については今後の類例の増加を待つべきであろう。

その他SB53に関し、他の住居址が数軒のまとまりで立地しているのに対し、北東部で1軒のみ単独で立地している事が興味深い。限られた調査範囲のため断定は出来ないが、集落の北東部限の可能性が考えられる。

今次調査では、これまで明らかにされていた座光寺原式期の弥生時代集落がさらに広がる事を確認するとともに、縄文集落及び中島式期の弥生集落の範囲は今次調査区まで広がらず、南側の台地縁辺部を中心に展開する事を裏付けた。

今後は、当遺跡内に実施された全ての調査結果を踏まえ、集落内の「単位集団」・墓域・集落を維持させた生産域等を検討する中で、伊那谷における弥生時代後期の様相を明確にしていく必要がある。

### 2 高松原遺跡と周辺の遺跡

高松原遺跡が位置する上郷地区の地形は、自然環境の項でもふれた通り地区の中央部を南北に横断する大段丘があり、これを境として俗に「上段」と呼ばれる洪積土壌地帯の中位段丘及び低位段丘Ⅰと、「下段」と呼ばれる沖積土壌面の低位段丘Ⅱに分けられる。

当地域の弥生時代集落を考える上で、この特徴的な地形は切り離して考える事が出来ず、遺跡の立地

場所が上段か下段であるかの違いにより、その遺跡の性格に違いが生じる。その違いとは、土地の生産力の違いに起因するのであるが、上段は火山灰が主体となる硬く粘質の乾燥した土壌であるため、水利に乏しく水田には向かない。よって農業も畑作が中心となる。

一方、下段は火山灰の二次堆積や砂・泥の堆積が主体となるため、その性質は柔い砂質で比較的湿潤な土壌である。それに加え天竜川の氾濫原に近いので、水利に恵まれ水田による稲作に向いている。このような土地の性質上、最初に弥生時代集落が定着した所は下段であり、堂垣外遺跡・拠点的大集落として知られる丹保遺跡をはじめ、藪越遺跡・兼田遺跡等が知られている。

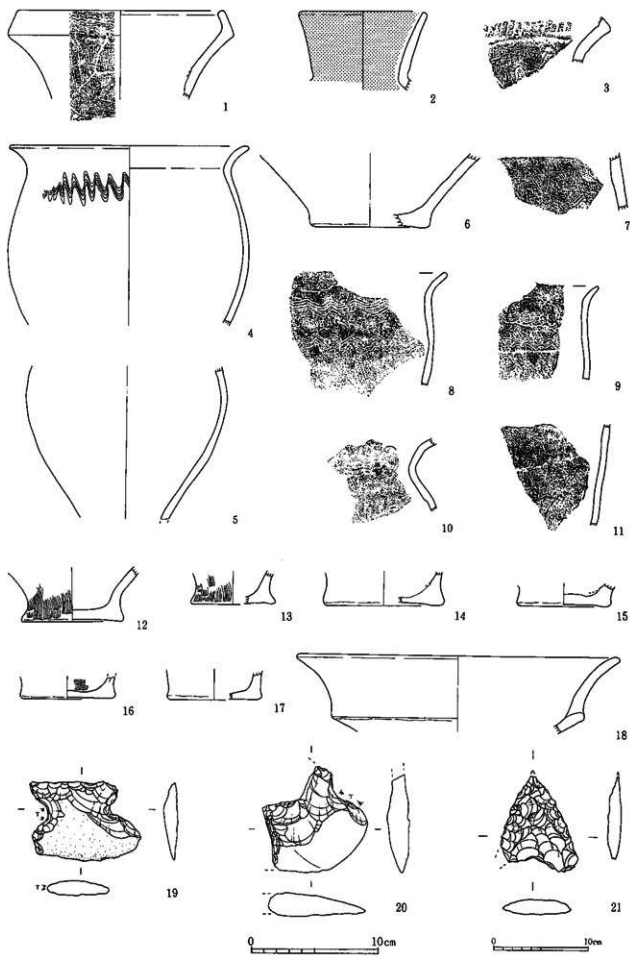
これらの遺跡は、弥生時代中期から後期にかけて長期間集落が維持されているのが特徴であるが、南条棚田遺跡に見られるように、周辺に広がる水田可耕地による生産力の高さが背景にあるためと考えられている。これに対して水田が作りにくい上段では、弥生時代中期まで目立った集落の出現は見られず、後期になって本格的な集落が出現する。この時期の集落の一つが高松原遺跡であり、その規模から後期前半における上段の拠点的大集落に位置付けられる。

同時期の周辺遺跡としては、原の城・増田・ツルサシ・ミカド・垣外遺跡等が挙げられるが、これら上段における弥生時代後期の集落は、維持される期間が比較的短い。この事は、高松原遺跡における住居址のほぼ9割にあたる47軒が後期前半の座光寺原式期であり、それぞれに時期差が多少あるものの、ほとんど切りあい関係はなく、集落が短期間で移動（廃絶）している点からも推測できる。これらが下段＝長期継続集落、上段＝短期廃絶集落と考えられている所以であるが、上段の土地生産力の低下が集落の移動を促す原因と言われている。近年、同じ上段の座光寺中島遺跡では長期間集落が継続している点から疑問を呈する意見もあるが（山下 2000）、今後の類例の増加をまって検討する課題であろう。

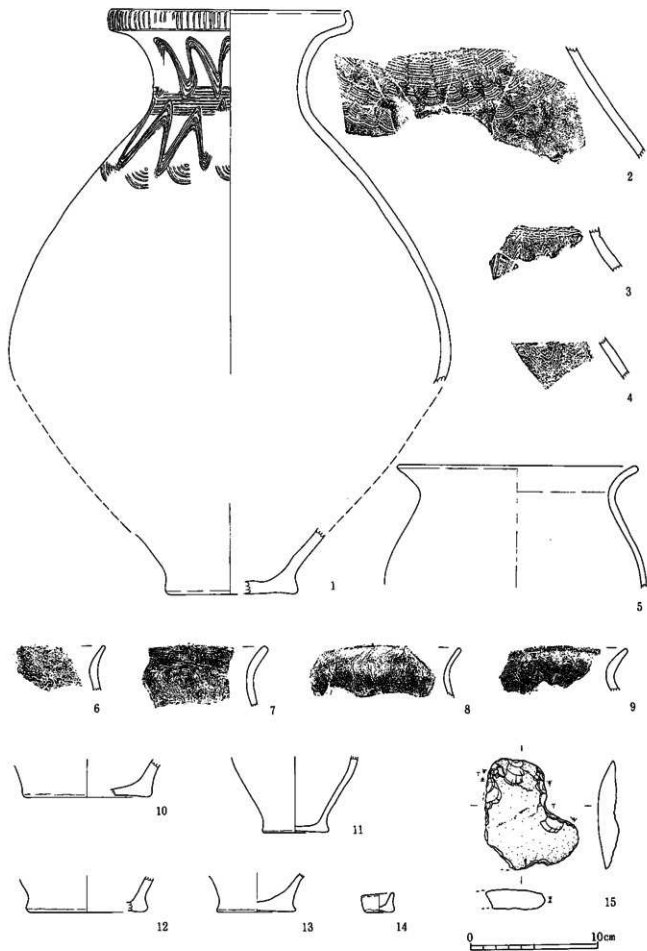
高松原遺跡は、今次調査も含め数次にわたる調査の結果、大規模な集落の様相が明らかにされ、下伊那を代表する弥生時代後期の遺跡として知られる事となった。しかし、その集落周辺に広がるであろう生産域・墓域などは、いまだ確認されておらず不明な点が多い。当遺跡26号住居址より麦などの炭化種子が確認されている事が畑作を裏付ける一つの証拠となっているが、今後の周辺地域の調査を待って高松原遺跡の全容及び上段における集落の様相を広く検討していく必要がある。

《参 考 文 献》

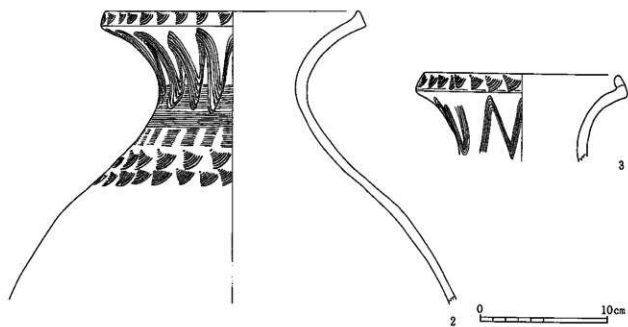
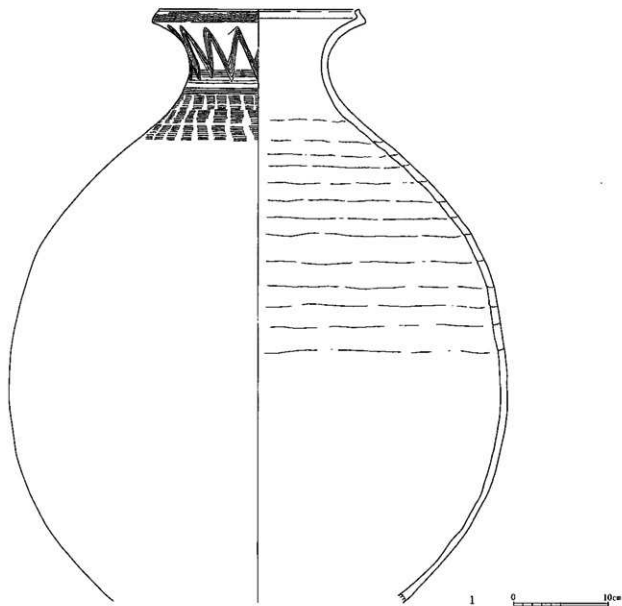
- 長野県飯田高等学校 1977 『高松原』
- 宮澤恒之 1978 「伊那谷における弥生集落の展開—座光寺原式期を中心として—」  
『中部高地の考古学』
- 上郷町教育委員会 1984 『高松原Ⅱ』
- 上郷町教育委員会 1985 『高松原Ⅲ』
- 甲元真之 1986 「農耕集落」『岩波講座 日本考古学』
- 上郷町教育委員会 1988 『兼田遺跡』
- 上郷町教育委員会 1989 『高松原Ⅳ』
- 上郷町教育委員会 1989 『ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡』
- 上郷町教育委員会 1991 『藪越遺跡』
- 下伊那誌編纂会 1991 『下伊那史』第一巻
- 上郷町教育委員会 1993 『丹保遺跡』
- 飯田市教育委員会 1994 『堂垣外・橋爪・藪上・長橋遺跡』
- 飯田市教育委員会 1996 『原の城遺跡』
- 長野県考古学会 弥生部会 1999 『長野県の弥生土器』
- 東日本埋文研究会 2000 『東日本弥生時代後期の土器編年』
- 山下誠一 2000 「飯田盆地における弥生集落の動向  
—発掘調査された竪穴住居址を基にして—」  
『飯田市美術博物館研究紀要 第10号』



第1圖 SB52

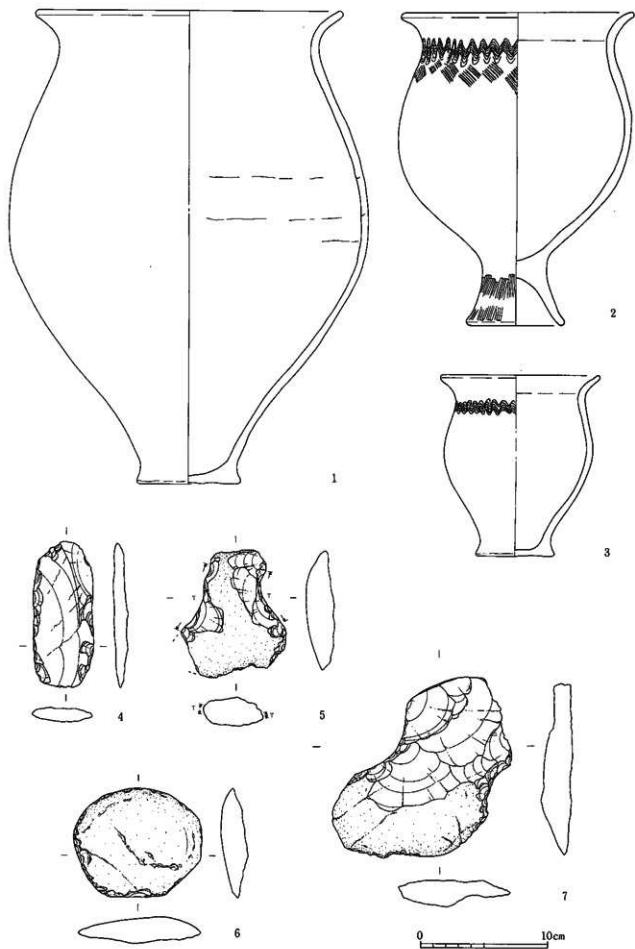


第2圖 SB53

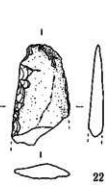
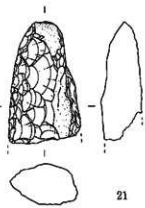
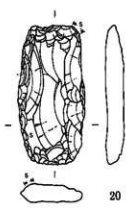
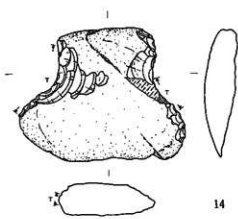
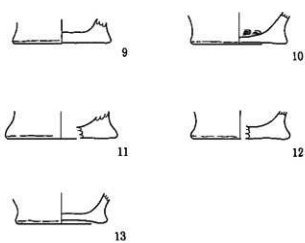
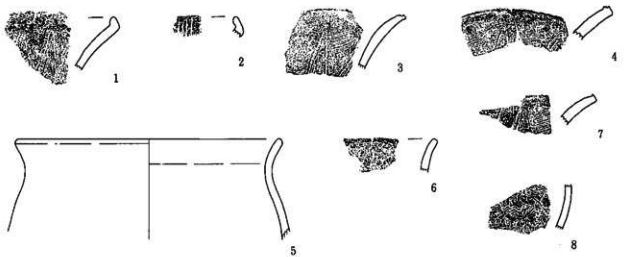


第3図 SB54

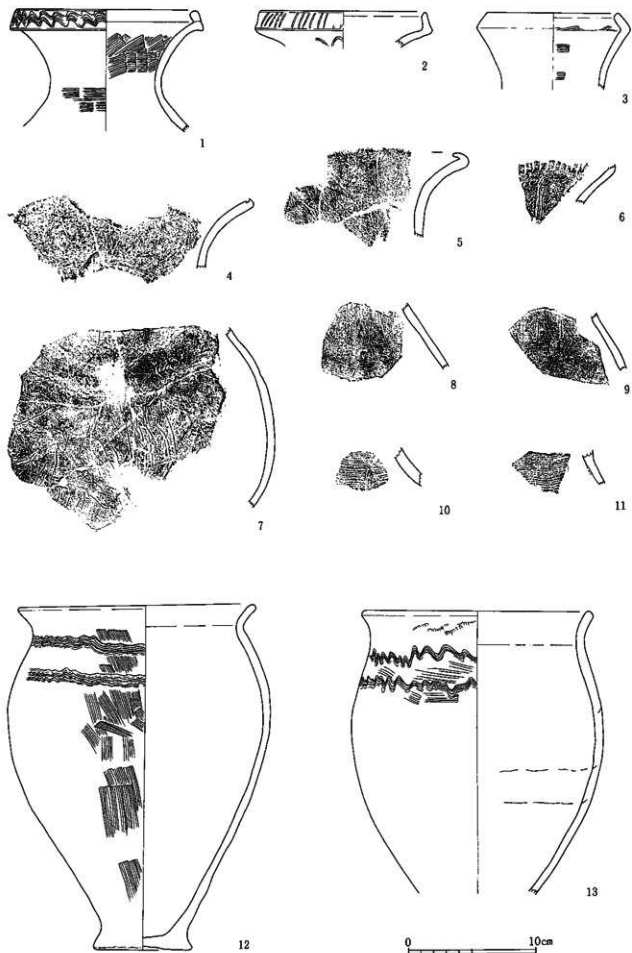




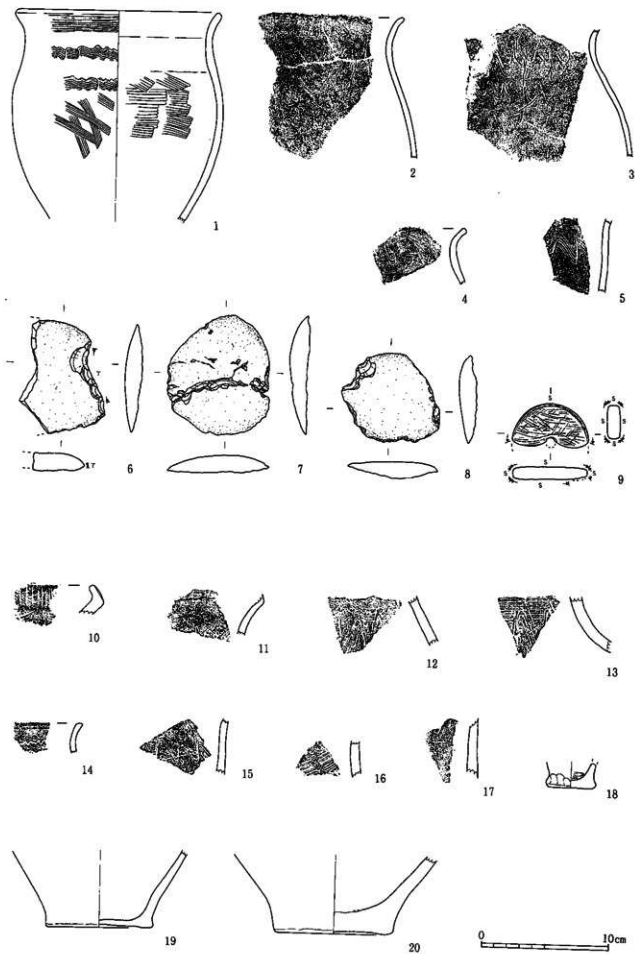
第4図 SB54



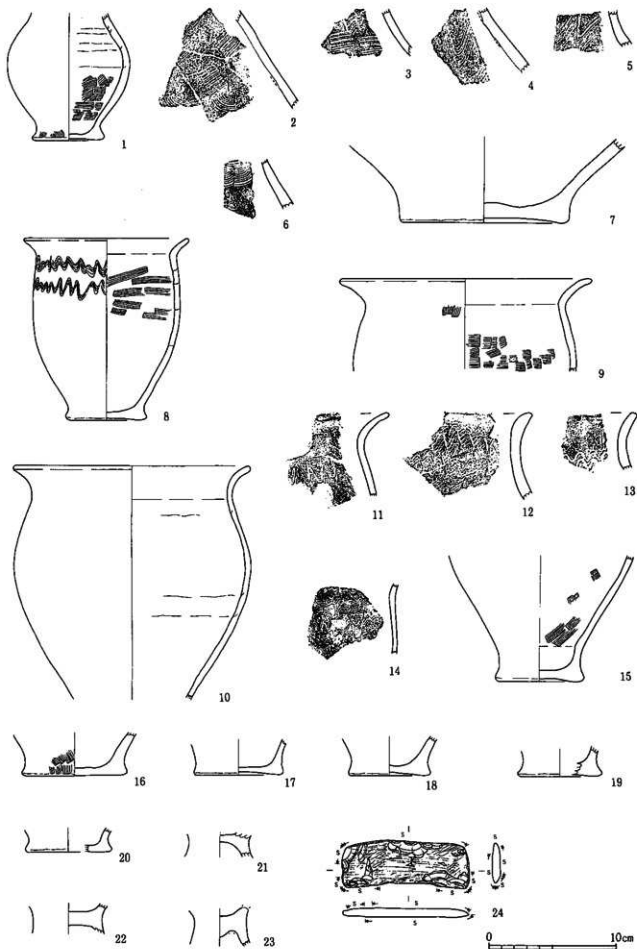
第5圖 SB55 (1~14) · 56 (15~22)



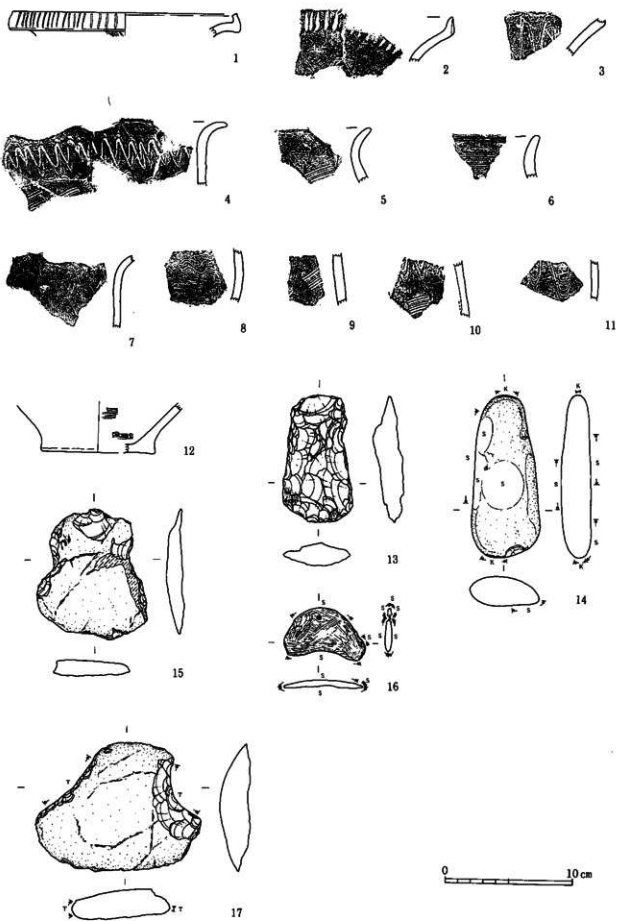
第6图 SB57



第7圖 SB57 (1~9) · 58 (10~20)



第8圖 SB59



第9図 SB60 (1~16)・遺構外 (17)





調査区全景（北から）



調査区全景（西から）





試掘調査風景



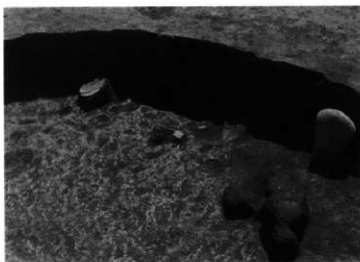
試掘調査風景



SB52



同 炉



同 遺物出土状況



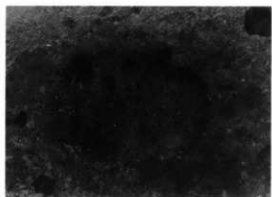
同 遺物出土状況



SB53



同 入口部

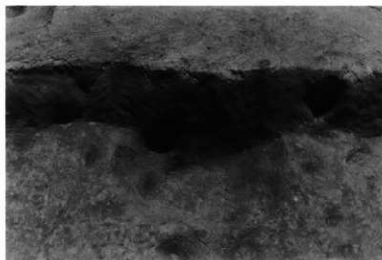


同 炉

同 遺物出土状況



SB54



同 入口部



同 炉



SB54 遺物出土状況



SB54 遺物出土状況



SB55

同 入口部



同 炉





SB56



同 入口部



同 炉



SB57 (新)



SB57 (旧)

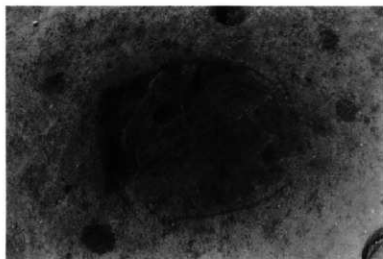




SB57 遺物出土状況



同 炉(新)



同 炉(旧)



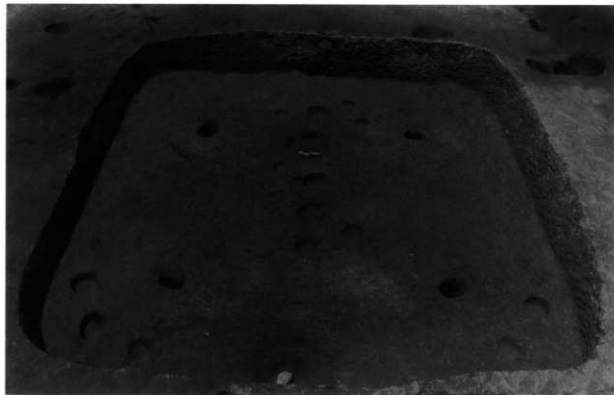
SB58



同 入口部



同 炉



SB59



同 入口部



同 炉



同 遺物出土状況



SB60



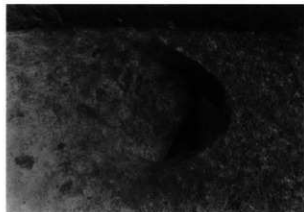
同 炉



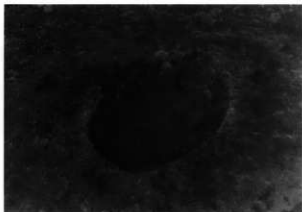
同 入口部

同 遺物出土状況

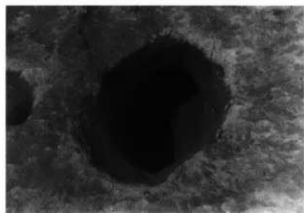




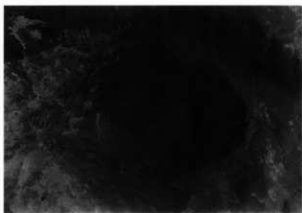
SK109



SK110



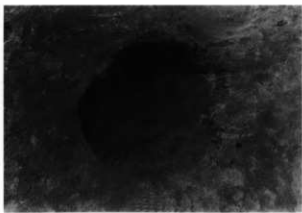
SK111



SK112



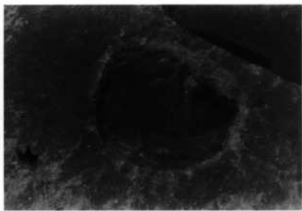
SK113



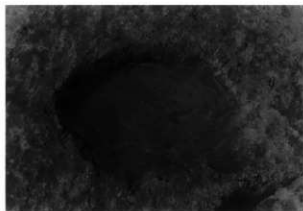
SK114



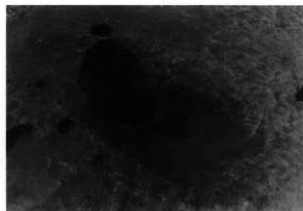
SK115 · 116



SK117



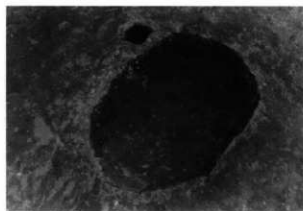
SK118



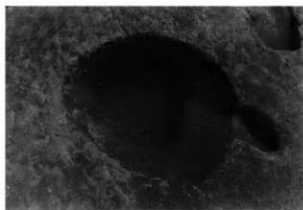
SK119 + 120



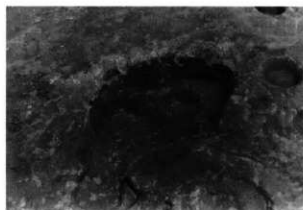
SK121



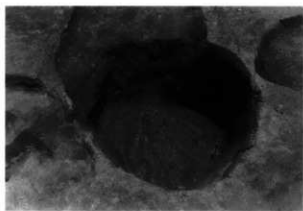
SK122



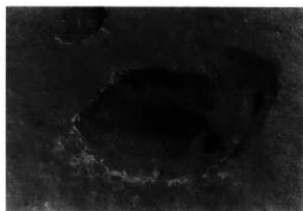
SK123



SK124



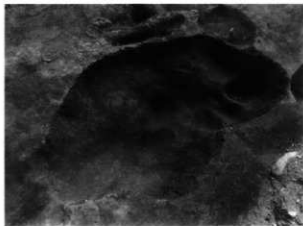
SK125



SK126



SK127



SK128



ST10



重機作業風景

重機作業風景



基準点測量



作業風景







作業風景



飯田高校現地見学会



浜井場小学校  
現地見学会

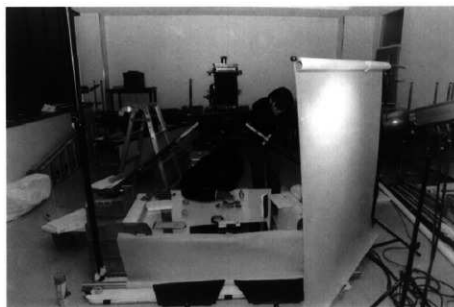
飯田高校生  
発掘体験学習



調査区写真撮影風景

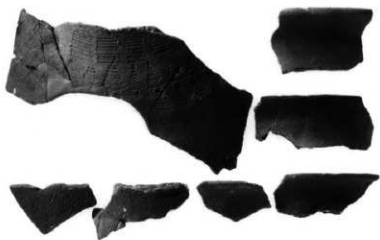


委託写真撮影  
(遺物)風景

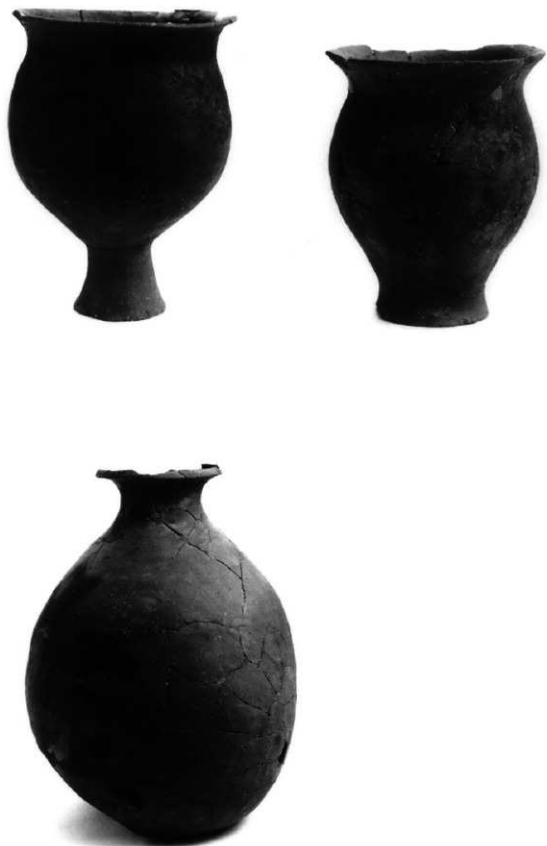




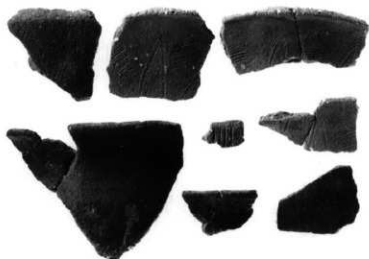
SB52 出土遺物



SB53 出土遺物



SB54 出土遺物



SB55



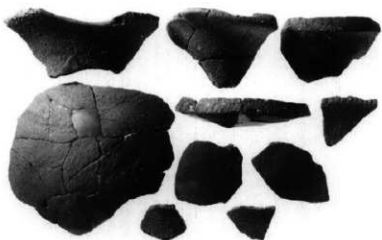
SB55



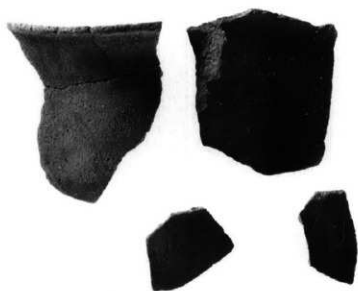
SB56



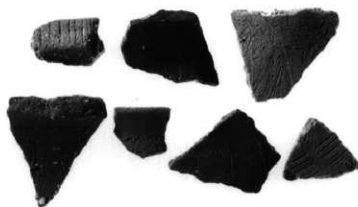
SB57 出土遺物



SB57



SB57



SB58





SB58



SB53·58



SB59



SB59



SB59



SB59



SB59



SB59



SB60



出土石器

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	たかまつばらいせき							
書名	高松原遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	佐々木嘉和 福澤好晃 坂井勇雄							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 Tel 0265-53-4545							
発行年月日	西暦2001年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 名所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村遺跡番号						
たかまつばらいせき 高松原遺跡	いだしのみさとくろだ 飯田市上郷黒田	2053		35度 30分 47秒	137度 50分 47秒	2000年 3月28日 ～ 2000年 6月7日	1,950㎡	プール・ 体育館建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
高松原遺跡	集落址	弥生時代	竪穴住居址	9軒	弥生時代後 期土器、石 器	弥生時代後期前半(座 光寺原式期)の集落の 広がりを確認した。		
			方形竪穴	1基				
			掘立建物址	1棟				
			溝 址	1条				
			土 坑	20基				

---

## 高 松 原 遺 跡

2001年3月30日 発行

編纂・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地

飯 田 市 教 育 委 員 会

印 刷 杉 本 印 刷 株 式 会 社

---

